

平成28年度 第3回大山崎町社会教育委員会議録

- ◇ 日 時 平成28年11月10日(木) 午後2時30分～午後4時30分
- ◇ 場 所 大山崎町役場 3階 中会議室
- ◇ 出席者 17名
 - 出席委員(7名)
上田委員長、森(一)副委員長、森(か)委員、山崎委員、綾木委員、井幡委員、西村委員
 - 事務局(10名)
教育長、教育次長、学校教育課長、生涯学習課長、生涯学習・スポーツ振興係リーダー、文化芸術係リーダー、歴史資料館長、事務局員
- ◇ 公開の可否 公開(一部非公開)
- ◇ 傍聴人 なし
- ◇ 会議の成立条件
半数以上の委員の出席により本日の会議は成立(欠席2名)

【概 要】

- ◇ 開会
- ◇ 教育長あいさつ
 - ホストタウンの取り組みが「大山崎町国際交流協会」の協力を得て、「ホストタウン事業認定記念スイス文化を学ぶ～ようこそ、ハイジのふるさとへ!～」を皮切りにスタートした。
 - 55回目の記念大会にもなった町民体育祭は、体育協会をはじめ、町内会・自治会長や役員、スポーツ推進委員等々のお力を得て、秋晴れのもと10月に開催できた。
 - 秋のもっとも大きいイベントである町民のまつり「ゆひまつり」、「文化のつどい」は、中央公民館のホールが使えないこともあって大山崎小学校会場を中心に行われ、大盛況の中で終えられた。
 - 秋の一連の事業がこの後も開催されるが、先日「東京デザインウィーク2016」の会場で展示されていた木製の出展作品が燃え、幼稚園児が全身やけどで亡くられたという痛ましい事故が発生した。亡くられたけんちゃんには、心からお悔やみを申しあげたい。
白熱球の電気が火災の原因ではないかと言われているが、ちょっとしたミスが大きな事故につながる。素晴らしい事業であってもこのようなことは許されないことであるという、常に危機管理意識を持ち事業を進めなければならない重要性をあらためて認識した。
 - こうしたことも踏まえ、大山崎町においても今後の事業に取り組むに当たって留意してほしいことが2点ある。
1点目に、これまでの取り組みはすべてうまくいったということはない。課題も多くあったと思う。課題があるから次はどう改善しようとするのが人の営

みであり、伝承や学習が展開される。そのことは、まちづくりにつながる生涯学習である。単にイベントに終わらせてはならない。しっかり検証し次につなげたい。

2点目に、これらの事業を「内（中）」から見てみると、社会教育委員の皆さんの活躍がある。子ども達への関わりや大人の学びなど、社会教育活動にきちんと関わっていただいている。

- 「社会教育委員研修会」では「社会教育委員の果たす役割」がいつも課題にあがるが、本町では各委員さんが町づくりの原動力となりその課題に応えている。各委員さんの点の活動が、線となり、面となって大きく動いていくものだと思っている。あらためて感謝申し上げるとともに引き続き社会教育の牽引者となっていただくことを願っている。

◇ 委員長挨拶

来年度開催予定の近畿地区社会教育研究大会京都大会の記念講演では、時雨亭文庫常務理事で京都府教育委員もされている冷泉貴実子氏を講師として予定している。その方が鳥羽高校で歌合せの指導をされている「披講『秋の歌会』」を観に行ってきた。その講評が勉強になった。

◇ 議事

- (1) 平成28年度社会教育委員会議関係事業報告について
事務局― 資料に沿って説明

【質疑応答】

- 委員長― 近畿地区社会教育研究大会に参加された方からの感想をお願いしたい。
- 委員― 社会教育委員の役割という分科会に参加した。地域により色んな活動があることを知った。地域に根付くのは難しいと感じた。
- 委員― 伝統文化でつなぐ地域づくりの分科会で、市川町の甘地獅子舞の取り組みを聞いた。人手が少ない中、外国人の力も借りながら神輿の巡行を復興したいと考えている。少子高齢化の中、子どもたちに受け継いでもらう努力をしている報告だった。
- 委員長― 京都府公民館大会の感想をお願いしたい。
- 委員― 講演は、気仙沼市での震災発生時における避難所の開設や運営、生活、救援物資の配布など綿密な資料をもとに話された。震災が起こる前から準備しておくべきことや訓練の大切さなどは大山崎町でも参考になると思った。

⇒議題（1）は承認

(2) 平成28年度生涯学習課関係事業報告について

事務局― 資料に沿って説明

【質疑応答】

○委員長― 今の報告について質問、意見のある方は挙手をお願いしたい。

○委員― 8月31日の行事はどんな内容なのか。

→事務局 男女共同参画について各団体から集まっていたさまざまなことを話し合ってもらった懇話会である。9月8日には、ワークショップを開催した。

○委員― 若い人も参加しているのか。

→事務局 はい。

○委員― 本校からは産休明けの教員が一番適当だと考え参加してもらった。

→教育次長「大山崎町第2次男女共同参画計画―みとめ愛プラン」(平成23年～28年)が本年度で終了となるため平成29年度以降の計画作りに向けて協議してもらっている。

→事務局 第1回目は、過去6年間の取り組みについて各課での達成状況や課題について報告した。懇談会の資料等をホームページでも閲覧できるようにしたい。

○委員― どんどころがクリアでき、どこが課題なのか。女性もそうだが男性も変わる必要がある。女性の社会進出を進めていく環境を整えていくことが大事である。

→教育次長 平成23年度に作成したもののまとめをして次に繋げていきたい。

○委員― 6年間は長いので、2年か3年ごとに検証することも大事ではないか。

○委員― 2年間では変化が見えにくいのではないか。

→事務局 本会の意見を懇話会に反映できるようにしたい。

○委員― 連続講演会にある「保」というのはどういうものか。

→事務局 「〇〇町内」というのが「保」として残っていて、隣組のようなものである。大山崎町には古くからある。

○委員― 7月14日の瓦窯跡整備委員会は、どのような内容か。

→事務局 8名の委員会で、史跡で学術的に価値のあるものについて話し合っている。立地等諸々の条件はあるが学術的に担保するため地盤状態について議論し工事に生かしていく。当時の地形にできるだけ近い復元をし、文化庁に実績報告していく。

○委員― スイスの文化と歴史の講座は良かったという声を何人かの人から聞いた。

○委員― 私も聞いて、スイスのことがよく知れて良かった。

○委員― 「古典の日」の発表では大山崎小の子どもたちや先生がよく頑張っていた。

○委員― 9月1日の人権研修会に参加して、聞くだけでいいと思って参加した

が何か話さないといけないことがわかり困ったという声も聞いたが、話し合うことも時にはいいのではと思った。

⇒議題（２）は承認

- (3) 社会教育関係団体補助金について
事務局― 資料に沿って説明

【質疑応答】

○委員― 単年度では買えないような備品購入を積み立てていくのは問題ないか。

→事務局― あくまでも団体の歳入決算額や繰越金額を基準にして補助金を算定するので問題はない。

⇒議題（３）は承認

◇ その他

- (1) 報告事項について **【非公開】**

公開しないこととする議決について

・報告事項について、全出席委員異議なく、公開しないこととすることに議決（「大山崎町情報公開条例第6条第1項第5号」により）

- (2) 事務局から以下の6点を報告

①次年度の主な新規事業（案）について

- ・ホストタウンの取組継続
- ・スポーツ観光聖地化（天王山ハイキング等）
- ・大山崎小学校留守家庭児童会施設の補修
- ・放課後子ども教室「ときめきチャレンジ推進事業」の平日開催

②留守家庭児童会施設でのやけどの事故後の対応について

③京都府社会教育研究大会について

④平成29・30年度の町社会教育委員について

⑤民俗芸能鑑賞会事業について

⑥大山崎町スイスフェアについて

◇ 閉会

◆ 副委員長挨拶

天王山に登る人が増えた。駅からも近く手軽に登れる山として親しむ人が増えているのがうれしい。山ではスズメバチを見受けるが、人が構わなければ蜂からは攻撃してこないと思うので、自然に親しめる場所として天王山の魅力が広がっていくことを願っている。

